



【表1】 平成14年度水道事業損益計算書

支出の部		収入の部	
営業費用	6億9,293万円	営業収益	9億2,268万円
原水及び浄水費（水の購入費など）	2億2,279万円	給水収益（水道料金）	8億5,836万円
配水及び給水費（維持管理費など）	2,638万円	受託工事収益（新設負担金など）	3,759万円
受託工事費（消火栓の新設費など）	1,218万円	その他営業収益（下水道使用料徴収受託料など）	2,673万円
業務費（料金の徴収経費など）	1,243万円		
総係費（その他事業全般の経費）	1,832万円		
職員給与費（人件費）	1億5,106万円		
減価償却費（配水管など）	2億5,104万円		
資産減耗費（水道メーターなど）	1,873万円		
営業外費用	1億7,130万円	営業外収益	48万円
支払利息など（借入金の利息など）	1億7,130万円	雑収入（その他）	48万円
特別損失	200万円		
過年度損益修正損（料金時効分）	200万円		
支出計～	8億6,623万円	収入計～	9億2,316万円
当年度純利益（ - ）	5,693万円		
前年度繰越欠損金（累積赤字額）	3,916万円	の黒字は、前年度から繰り越されたの3,916万円の欠損金に繰り入れました。その結果、の差引黒字は、1,777万円となります。	
当年度未処分利益剰余金（ - ）	1,777万円		

【写真】

10月27日(月)に通水式が行われた柏木配水池（柏木町）。水道水の安定供給や災害などの非常時における貯水量の確保、低水圧の解消などを図るため、平成14年度から2カ年の継続事業として、柏木町の高台に設けられました。

この柏木配水池の貯水量は、幌別配水池が老朽化し、閉鎖された場合に必要とされる水量を含んでいます。



【表2】 水道事業経営分析

項目	平成13年度	道内市順位	説明
	平成14年度		
経常収支比率（経常費用に対する経常収益の割合を表す） 経常 = (営業 + 営業外)	101.25%	23	使用水量が落ち込みましたが、料金を改定したことで黒字になりました。
	106.82%	-	受水量や修繕件数などの減少により、約6%上昇しました。
職員1人当たり営業収益（職員と収益の効率性を表す）	5,369万円	10	34市の平均額を上回っており、効率的に機能していると判断できます。
	6,322万円	-	職員の減員などにより金額がアップし、さらに効率性が増したと判断できます。
職員1人当たり給水人口（職員と給水人口の効率性を表す）	3,355人	3	水道事業にかかわる職員数は、34市で少ない方の上位です。
	3,822人	-	前年度レベル以上の数値となっています。
有収率（浄水場で作られた水の使用割合を表す）	84.70%	17	配水効率は、漏水調査などの効果で約1%上昇し、34市のほぼ平均となっています。
	85.51%	-	前年度に引き続き、漏水調査などの効果で約0.8%上昇しました。
供給単価（1m <sup>3</sup> 当たりの水の販売価格を表す）	181.40円	11	料金収入と使用水量によって、金額が変動します。34市の平均額より低額です。
	189.89円	-	料金改定による収入増と使用水量の落ち込みの影響で売値が上昇しました。
給水原価（1m <sup>3</sup> 当たりの水の生産原価を表す）	184.66円	11	経常費用と使用水量によって、金額が変動します。34市の平均額より低額です。
	187.06円	-	使用水量の減少率が経常費用の減少率を上回ったため、原価が上昇しました。

注1. 道内市順位の14年度欄は、他市の統計が集計されていないため、『 - 』としています。

2. 各項目の基礎となる数字は、営業活動を示す『営業活動にかかる収支（収益的収支）』を対象にしたものです。

【表3】 平成15年度予算執行状況（平成15年9月30日現在）

区分		予算額	支出済額	執行率
営業活動にかかる収支	収入	9億7,922万円	4億7,060万円	48.1%
	支出	9億4,240万円	2億8,692万円	30.4%
施設設備にかかる収支	収入	4億4,200万円	1億円	22.6%
	支出	8億1,442万円	3億8,569万円	47.4%
合計	収入	14億2,122万円	5億7,060万円	40.1%
	支出	17億5,682万円	6億7,261万円	38.3%

水道事業に関する  
お問い合わせは

水道業務課

☎ 85 5 5 0 1

FAX 85 5 8 0 5